

智識細胞による連携覚醒推論と主体学習機能 (人工頭脳の基礎理論 I)

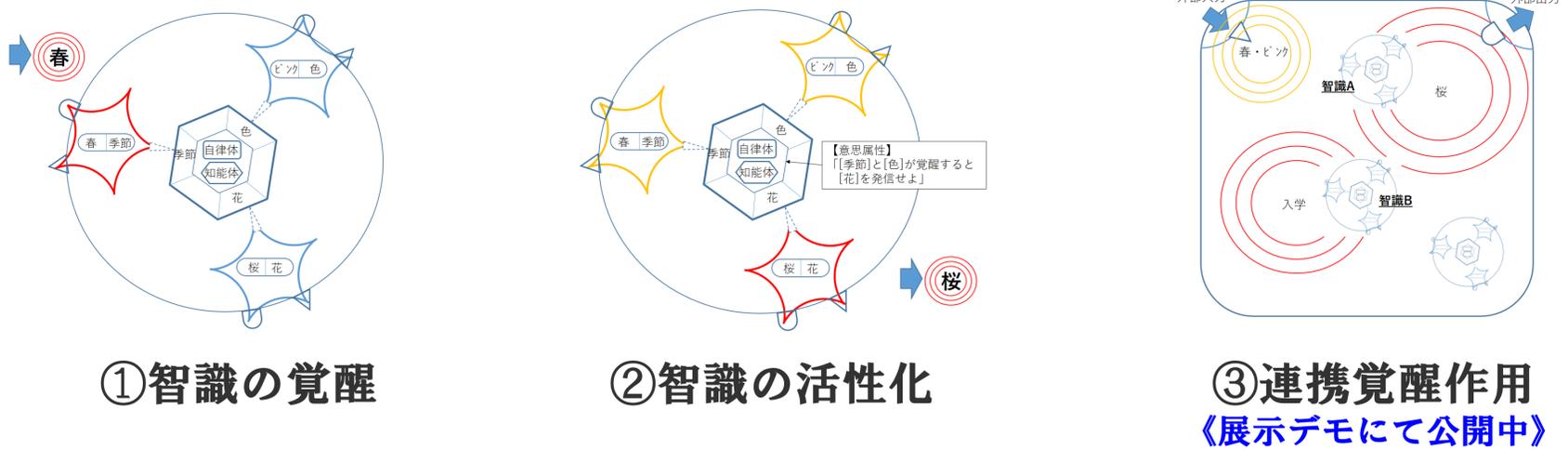
～覚醒型の知識モデルに主体学習機能を持つ自律性 AI～

1. 自律覚醒型人工頭脳の仕組 (智識の覚醒と活性化)

(1) 智識の構造と推論

- ・ 知識の構造は、知識が神経ネットで結束された探索型AIとは異なり、**独立した智識神経細胞の集合体**で構成される。
- ・ 推論の方法は、神経ネットを順番に評価する探索型AIとは異なり、入力された**知能波に感応した個々の智識細胞の発火作用**により、**活性化した情報を知能波として発信**する。

(2) 知識モデル(自律覚醒細胞)の推論作用



- ① 智識の覚醒** 人工頭脳に、智識推論の発火源となる情報が知能波として智識空間に入力(発信)されると、**知能波に感応する智識が覚醒**する。
- ② 智識の活性化** 覚醒した智識は、**自己が持つ智識作用を記憶した意思**に順じて、覚醒状態に応じ**智識が活性化**されて、情報を知能波として発信する。
- ③ 連携覚醒作用** 智識から発信された**知能波は他の智識の発火源**となり、感応する智識が**連携しながら覚醒**する。連携作用は感応が安定する迄繰り返される。

2. 主体学習の作用

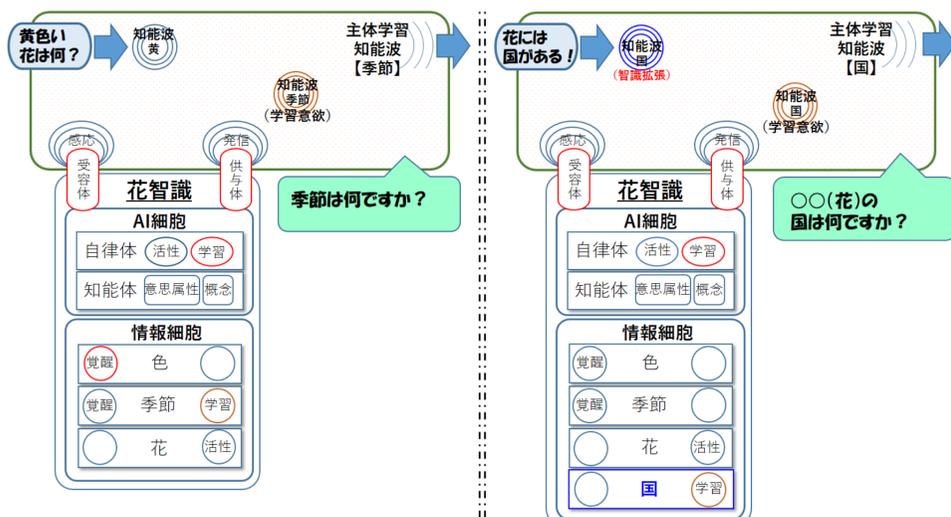
主体学習は、知識細胞が**自らの学習意欲**により知識を要求して学習する作用である。

① 課題依存型の主体学習

課題入力による覚醒状態の不足な概念値について学習意欲が発生して智識学習を行う。

② 自己調整型の主体学習

新たな従属概念が生成された場合に、概念値の学習意欲が発生して智識学習を行う。



① 課題依存型 ② 自己調整型
《展示デモにて公開中》